

国際シンボルマ - ク (車いすマ - ク) の貼付は、仙台が最初

仙台のボランティア活動の歴史について、いつか話してくれないかと依頼されている。実体験を話そうと思っているが、念のために文献等を調べると、仙台のボランティア活動の歴史が体系的、時系列的に解ってきて、参考この上なし！

戦前は、東北は凶作や冷害による飢えとの戦いの中で、犠牲となる婦人や子どもの救済が主であり、もちろん今のようなボランティア活動どころでなかったであろう。戦後は、戦後の混乱の中で、地域の子どもの育成を主たる目的とした学生によるセツルメント活動が主であったよう。その後の、国、地域の経済力の発展と共に、セツルメント活動そのものの目的性は乏しくなり、その延長として障害児・者支援に移ってきたよう。

具体的には、戦後、親や家をなくした子ども達に取り組んだ学生の「児童愛護連盟」と、文化人の「仙台児童クラブ」が仙台のボランティア活動の第1号とか。1949～「仙台学生センター」の学生が児童福祉施設支援とする仙台ワ - クキャンプ活動を開始し、これが後の「西多賀ワ - クキャンパス」の名称の由来とか。

また、1956～「東北学院大学セツルメント」が、1963～「マザ - ズホ - ム (重度障害児の通園施設)」を支援した。

更に、1958～「東北福祉大学心身障害児福祉研究会」の有志が1964～「重症心身障害児(者)のためのボランティアの会(恐らく、「ボランティア」の名を冠した仙台で最初のボランティアグループと思われる)」の活動を始め、それが現宮城県肢体不自由児協会「ホ - ムヘルプサ - ビス」に繋がっている。

特記すべきは、各ボランティアグループと市民団体が連帯し、1971～「生活圏拡張運動」が始まり、繁華街の車道と歩道の段差を埋めるための鉄板スロ - プ購入のために募金活動を行い、設置した(これらの運動が、全国のバリアフリー - への改善具体化の先鞭となる)。

1971. 11「三越仙台支店」が身障者用トイレに改善着手し、国際シンボルマ - ク(車いすマ - ク；1969. 国際リハビリテーション会議で制定)の日本で最初の貼付だったとは驚き！

正に、学生の純真なボランティア精神が、仙台の福祉を築いてきたといっても過言でないようである。

かくいう私も、「仙台マザ - ズホ - ム」、「重症心身障害児(者)のためのボランティアの会」、「生活圏拡張運動」、「ホ - ムヘルプサ - ビス」にも係わり合ってきたが、改めて仙台のボランティア活動の歴史の新しい発見もあり、驚いている。

(2003年07月20日記)